

市政記者各位

2023年6月8日

福岡市博物館

ふくおかの歴史や文化の魅力を紹介する企画展を開催します。

博多祇園山笠展 22／幔幕 3—山笠と幔幕—

6月13日（火）～8月15日（火）企画展示室 4

福岡市博物館では、山笠の期間にあわせて「博多祇園山笠展」を開催しています。22回目を迎える今回は、山笠の時期に博多の町々でみられる幔幕に注目します。

10メートルに及ぶものもある幔幕は、博多の年中行事である松囃子や山笠、放生会などに欠かせない町の共有具の一つです。本展では、幔幕や山笠の写真など約10点を通して、山笠における幔幕の使い方に加えて、個性溢れる幕のデザインについて紹介します。

以上の通り企画展を開催いたしますので、ぜひご取材いただきますようお願いいたします。

- **博多祇園山笠**は、毎年7月1日から15日にかけて開催される櫛田神社（博多区上川端町）の祭礼です。祭り期間中には豪華絢爛な飾り山笠が市内各所にたてられ、勇壮な舁き山笠が博多の街中を駆け巡ります。
- **幔幕（まんまく）**は空間を隔て、装飾をするために横に長く張り渡す広く大きな布のことで、布を縦に縫い合わせたものを幔、横に縫い合わせたものを幕といますが、これらを総称して「幔幕」と呼んでいます。

幕を仕立てる

幔幕は誰がどのような時に仕立てたのか。博多の年齢集団である若者組や山笠との関係から紹介します。



【金魚図幔幕（福岡市指定有形民俗文化財）／旧博多奈良屋町／福岡市博物館蔵】

個性あふれる意匠

博多の町々でつくられた幔幕のなかには、「奈良屋町といえば金魚」、「下呉服町といえば角力取り」、「下鰯町といえば雀踊り」などと言われたものがあり、意匠は町の印（しるし）として博多の町内に広く知られていました。



【十二支裾柄雀踊図幔幕／旧博多下鰯町／福岡市博物館蔵】

山笠における幔幕

山笠における幔幕は、詰所や山小屋などで空間を仕切り彩るものとして用いられてきました。各町が張り合うように仕立てた華やかな幔幕は、山笠という特別で非日常的な環境を支えています。また山笠の舁き棒から下部を覆う幕（台幕）としても使われてきました。



【写真「博多祇園山笠 呉服町流下呉服町」／福岡市博物館蔵】



【写真「博多祇園山笠 土居流浜小路」／福岡市博物館蔵】

幕の謎解き

博多で見られる幔幕の多くは縦に布を継いだものですが、なかには布を横に継いだ方形の珍しい幕もあります。山笠でも使用したと伝わるこの幕が、どのように使われていたのか写真をもとに考えていきます。



【豊臣秀吉図・賤ヶ岳の戦い図幔幕

／旧博多下奥堂町／博多町家ふるさと館蔵】

開催概要

- 場 所
福岡市博物館 2階 企画展示室 4
- 時 間
9時30分～17時30分（入館は17時まで）
- 休館日
月曜日（月曜日が休日の場合は翌平日休館）

※8月14日（月）・15日（火）は開館します。
また、7月22日（土）～8月26日（土）はトワイライトミュージアムとして、期間中の金・土・日・祝日および8月14日（月）・15日（火）は20時まで開館時間を延長します。
（入館は19時30分まで）

- 観覧料
一般 200（150）円
高大生 150（100）円
中学生以下無料
※（ ）内は20以上の団体料金
※料金は常設展示室・企画展示室共通

■お問い合わせ先 福岡市博物館 学芸課：松村
TEL：092-845-5011 FAX：092-845-5019